

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDa101		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、主に社会福祉の全体（基本）を学ぶものである。社会福祉士指定科目でもある。

講義では、現代社会における福祉の理念、福祉制度、実態、福祉政策との関係という内容を順次学んでいく。学修目標は次の3点である。 福祉の原理をめぐる理念、理論、哲学について理解することができる。 福祉政策におけるニーズと資源について理解することができる。 福祉政策の課題について理解することができる。

#### 内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

#### 目次

- 1 福祉制度の概念と理念 憲法理念を中心に
- 2 福祉制度の概念と理念 ノーマライゼーション理念を中心に
- 3 福祉制度と福祉政策の関係
- 4 福祉政策と政治の関係
- 5 福祉政策の主体と対象
- 6 福祉の原理をめぐる理論・哲学・倫理
- 7 前近代社会と福祉（救貧法、慈善事業、博愛事業、相互扶助、その他）
- 8 近代社会と福祉（第二次大戦後の窮乏社会と福祉、経済成長と福祉、その他）
- 9 現代社会と福祉（新自由主義、ポスト産業社会、グローバル化、リスク社会、福祉多元主義、その他）
- 10 需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他）
- 11 資源の定義（資源の定義、その他）
- 12 福祉政策と社会問題（貧困、孤独、失業、要援護〔児童・高齢・障害・寡婦〕、偏見と差別、社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
- 13 社会政策の現代的課題（社会的包摂、社会連帯、セーフティネット、その他）
- 14 福祉政策の課題と国際比較（国際動向を含む）
- 15 授業のまとめ

#### 評価

平常点30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

#### 授業外学習

【事前準備】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[使用テキスト]

- ・塩野敬祐・福田幸夫編『現代社会と福祉 - 社会福祉 福祉政策[第3版]』弘文堂
- ・『福祉小六法 2015』みらい社

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDa201		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

社会福祉原理・理論・対象・分野等、全般についての講義を行う。

#### 授業の概要

少子高齢社会における社会福祉の現状を制度的視点からと共に、専門行動的視点から歴史の変遷を含めて鳥瞰図的にとりあげる。社会福祉サービスを展開するうえで保健医療関係者及び地方行政機関との連携、協同のあり方について学び、社会福祉サービスに必要な知識・技術・態度・視点を身につけ、社会福祉サービスの本質について検討する。

#### 学修目標

本科目の学修目標は、（１）わが国の社会福祉制度の概要と各分野における現状の理解、（２）身近に起こっている福祉領域に関する諸問題について、学生個々が関心を持つこと、（３）個々の関心を持つ諸問題の現状と課題についての理解、を目標とする。

#### 内容

1	社会福祉の理念と概念について ~社会的歴史的所産として捉え方を学ぶ~
2	社会福祉の対象と主体について ~現在から過去にさかのぼってその変遷を学ぶ~
3	社会福祉のニーズ概念について ~需要と供給の関係のもとに検討してゆく~
4	社会福祉の発展 について ~英国と日本の比較をしながら学ぶ~
5	社会福祉法体系について（１） 社会保障制度と社会福祉法制度について検討する
6	社会福祉法体系について（２） 生存権を視点に社会保障制度と社会福祉法制度を検討する
7	福祉行財政の仕組み（１）
8	福祉行財政の仕組み（２）
9	中間まとめ
10	少子高齢化社会と暮らし（１）子どもの貧困の現状と対策
11	少子高齢化社会と暮らし（２）子どもの貧困の現状と対策
12	少子高齢化社会と暮らし（３）高齢者の貧困の現状と対策
13	少子高齢化社会と暮らし（４）高齢者の貧困の現状と対策
14	未来への課題 ~人権保障と生活保障~
15	まとめ

#### 評価

中間試験（持ち込み自筆ノート・配付資料のみ）及び定期試験の結果とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：後藤 卓郎（編）『新選 社会福祉第2版』，（株）みらい2013年3月。

他オリジナル資料配付

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDa102		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本学では、高齢者福祉を学ぶ科目として、高齢者に対する支援と介護保険制度 ・ を設置している。そのうち高齢者に対する支援と介護保険制度 は、高齢者福祉を学ぶ背景（高齢者の特性、少子高齢社会に伴う諸問題、歴史的変遷等）や、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等の基礎的な理解を図る科目である。

#### 科目の概要

高齢期と一概にいてもその時間的な幅は大きく、各々の心身機能や生活状況も様々である。平均寿命は男女とも80歳代となり、人口の4分の1が65歳以上である日本において、高齢者を取り巻く社会状況や生活支援に関する法律や制度、諸サービス等を総合的に学ぶことは重要である。本科目では、高齢者を支援が必要な人として一面的に捉えるのではなく、生活の主体者と捉え、生活支援という視点から、これらの内容を学ぶ。

#### 学修目標（＝到達目標）

高齢者福祉を学ぶ背景（高齢者の特性、少子高齢社会に伴う諸問題、歴史的変遷等）や、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等に関し基礎的な知識を習得すること。

#### 内容

1	オリエンテーション、高齢期の生活
2	高齢期の生活、高齢者を取り巻く社会情勢
3	高齢者福祉に関する制度や実践の変遷
4	高齢者福祉に関する制度や実践の変遷
5	介護保険制度
6	介護保険制度
7	介護保険制度
8	介護保険制度
9	介護保険制度
10	老人福祉法
11	高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律
12	高齢者の居住の安定確保に関する法律 / 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
13	地域包括ケアシステム
14	地域包括ケアシステムと今後の課題
15	まとめ

#### 評価

振り返りのためのレポート（40点）、小テスト（10点×2回）、最終レポート（40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】自分の住んでいる（もしくは親族が住んでいる）自治体が発行している介護保険制度に関するパンフレットを1部もらっておくこと

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田進一・橋本正明編著『社会福祉士養成テキストブック高齢者に対する支援と介護保険制度』ミネルヴァ書房

【推薦書】

【参考図書】

科目名	児童・家庭福祉論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング	KDa103		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

少子・高齢化社会における児童・家庭福祉について講義、資料、及び事例等を通じて包括的に理解する。

科目の概要

ア 現代社会における児童・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（ひとり親家庭、児童虐待、DV、地域における子育て支援等）と実際を理解する。

イ 児童・家庭制度の発展過程を理解する。

ウ 子供の権利（子どもの最大の利益を実現する視点）を理解する。

エ 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法のあらましを理解する。

学修目標

出生率の変化というマクロの社会状況と児童の成長発達というミクロの状況を視野に入れて、児童に係る課題を考えられるようになること。

内容

1	児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢（少子化、地域における子育て支援等）
2	児童・家庭の福祉需要
3	児童・家庭福祉制度の発展過程
4	児童の定義と権利（児童福祉法、児童の権利に関する条約等）
5	児童福祉法
6	児童虐待の防止に関する法律
7	DV法の概要及び売春防止法の概要
8	母子及び寡婦福祉法
9	母子保健法
10	児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当の支給に関する法律の概要
11	次世代育成支援対策推進法・少子化対策推進法
12	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際（国・都道府県・市町村等の役割）
13	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と地域における他職種連携と実際
14	児童相談所の役割と実際
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】テキスト各章を一読しておく。

【事後学修】重要な概念、用語を振り返る。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」 ミネルヴァ書房

参考図書 社会福祉六法



科目名	障害者福祉論		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング	KDa104		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に対応する科目であり、国家試験受験資格取得に必要な科目である。また介護福祉士資格取得のための指定科目である。

#### 科目の概要

本科目では、（１）障害のある人の生活実態とこれを取りまく社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解する。（２）障害者福祉制度の発展過程について理解する。（３）相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害のある人の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。

#### 学修目標

授業内容についてテキストを精読することと、索引に登場する用語について調べ理解しておくことが求められる。その上で以下の点について理解できているかを目標とする。

- （１）障害のある人への福祉の歴史と理念について説明ができること
- （２）障害のある人の生活実態について説明できること
- （３）障害のある人への自立支援制度の概要とサービスについて説明できること
- （４）障害のある人への専門職のかかわりのポイントについて説明できること

#### 内容

1	オリエンテーション、障害者福祉の視点
2	障害者福祉の歴史（欧米編）
3	障害者福祉の歴史（日本編）
4	障害者福祉の基本理念 各権利宣言・法制度
5	障害者福祉の基本理念 障害者福祉実践の展開
6	障害者の概念と障害者の実態
7	障害者福祉の法体系
8	障害者総合支援法
9	障害者福祉サービス
10	障害者福祉サービスにおける給付の仕組み
11	障害者福祉サービスにおける課題
12	障害者の生活保障
13	障害者福祉にかかわる専門職
14	障害者福祉の今後の展望、全体の振り返り
15	まとめ

#### 評価

試験による評価（中間試験又はレポート2回各15点 前期試験60点）

平常（授業態度等）評価10点

総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】事前にテキストに目を通しておくこと

【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】相澤譲治他『障害者への支援と障害者自立支援制度』みらい

推薦書・参考書等は随時紹介する

科目名	医学一般		
担当教員名	高世 秀仁		
ナンバリング	KDa105		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

介護・福祉に欠かせない、正しい健康、病気、老化に関する知識を習得する。

##### 科目の概要

ヒトの成長や発達、正常な身体構造及び生体活動について理解する。疾病や障害の概要について理解する。さらにリハビリテーション、医療社会保障の概要について理解する。

##### 学修目標（＝到達目標）

介護・福祉の現場に必要な医学の知識を学び、より良い対人援助ができる。

#### 内容

1	医学とは
2	成長・発達 身体のしくみ
3	感染症
4	生活習慣病・悪性腫瘍・脳血管疾患
5	心疾患・高血圧・糖尿病
6	内分泌・呼吸器・消化器
7	血液・膠原病・腎臓病
8	神経難病
9	感染症対策・難病対策
10	先天性疾患
11	障害・精神疾患
12	認知症
13	リハビリテーション
14	健康のとらえかた
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度10%、レポート20%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】学習内容を教科書で予習

【事後学修】教科書、配布資料で内容を振り返る

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会「人体の構造と機能及び疾患」中央法規

【推薦書】

【参考図書】

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング	KDa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 ソーシャルワークの概念、ソーシャルワーカーの業務について学ぶことを目標とする。

科目の概要 そのためまず社会福祉士、精神保健福祉士という国家資格の役割と意義について学ぶ。さらに相談援助に係る概念及びその範囲についてその形成過程から理解し、重要な理念の1から8までを学ぶ。

学修目標 これらのソーシャルワークの基礎知識を身につけ、実際の現場での応用などのステップへ向かえるようにすること。

#### 内容

1	社会福祉士及び介護福祉士法の概要
2	社会福祉士の役割と意義
3	精神保健福祉士法の概要
4	精神保健福祉士の役割と意義
5	ソーシャルワークにかかわる各種の国際定義
6	ソーシャルワークの概念と範囲
7	相談援助の理念 1 人権尊重
8	相談援助の理念 2 社会正義
9	相談援助の理念 3 利用者本位
10	相談援助の理念 4 尊厳の保持
11	相談援助の理念 5 権利擁護
12	相談援助の理念 6 自立支援 ( 地域生活支援 )
13	相談援助の理念 7 社会的包摂 ( 地域包括 )
14	相談援助の理念 8 ノーマライゼーション
15	まとめ

#### 評価

レポート40点、試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】専門的な用語に接するため、テキストを一読すること。

【事後学修】一つひとつの概念を振り返り、実際の事例に当てはめる習慣を身につける。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

教科書「相談援助の基盤と専門職」(新・社会福祉士養成講座)中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

##### 科目の概要

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

##### 学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

#### 内容

第1回 オリエンテーション

第2～5回 自己理解・自己覚知

第6～10回 相談援助の価値・倫理と他者理解

第11～14回 援助関係とコミュニケーション

第15回 まとめ

#### 評価

振り返りのためのレポート（50点）、授業での参加姿勢（30点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	相談援助演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

本学では、社会福祉士養成にあたり相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

##### 科目の概要

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。この授業では、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深めることを広げ深めていくことを中心的なねらいとする。

##### 学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

#### 内容

第1回 オリエンテーション

第2～5回 自己理解・自己覚知

第6～10回 相談援助の価値・倫理と他者理解

第11～14回 援助関係とコミュニケーション

第15回 まとめ

#### 評価

振り返りのためのレポート（50点）、授業での参加姿勢（30点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

【推薦書】



【参考図書】

科目名	相談援助演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

本学では、社会福祉士養成にあたり相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

##### 科目の概要

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。この授業では、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深めることを広げ深めていくことを中心的なねらいとする。

##### 学修目標（=到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

#### 内容

第1回 オリエンテーション

第2～5回 自己理解・自己覚知

第6～10回 相談援助の価値・倫理と他者理解

第11～14回 援助関係とコミュニケーション

第15回 まとめ

#### 評価

振り返りのためのレポート（50点）、授業での参加姿勢（30点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐竹 要平		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

本学では、社会福祉士養成にあたり相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

### 科目の概要

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。この授業では、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深めることを広げ深めていくことを中心的なねらいとする。

### 学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

## 内容

第1回 オリエンテーション

第2～5回 自己理解・自己覚知

第6～10回 相談援助の価値・倫理と他者理解

第11～14回 援助関係とコミュニケーション

第15回 まとめ

## 評価

振り返りのためのレポート（50点）、授業での参加姿勢（30点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐竹 要平		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

本学では、社会福祉士養成にあたり相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

##### 科目の概要

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。この授業では、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深めることを広げ深めていくことを中心的なねらいとする。

##### 学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

#### 内容

第1回 オリエンテーション

第2～5回 自己理解・自己覚知

第6～10回 相談援助の価値・倫理と他者理解

第11～14回 援助関係とコミュニケーション

第15回 まとめ

#### 評価

振り返りのためのレポート（50点）、授業での参加姿勢（30点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	基礎介護論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC126		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。

#### 授業の概要

1．介護福祉士を取り巻く状況（介護の変遷・少子高齢社会・家族機能の変化、介護の社会化、介護ニーズの変化）や2．介護問題理解、3．介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて学習する。

#### 学修目標

介護福祉士の基盤となる、介護の基礎知識の習得と「尊厳」と「自立」の捉え方について理解を深めることを学修目標とする。

#### 内容

1	前期オリエンテーション	内 容：求められる介護福祉士とは何か
2	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～相互扶助と慈善救済活動～
3	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～養老律令と介護行為～
4	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～恤救規則から生活保護制度～
5	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～老人福祉法から介護保険制度～
6	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：高度経済成長と家族機能の変化
7	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：核家族と介護の社会化
8	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：老老介護と高齢者虐待
9	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：福祉専門職種資格の変遷
10	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：介護福祉士の定義と義務規定
11	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：名称独占と業務独占
12	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：介護福祉士養成の現状と課題
13	専門職団体の活動	内 容：介護福祉士会の現状と課題
14	専門職団体の活動	内 容：日本介護福祉士会生涯学習制度
15	まとめ	

#### 評価

1．レポート20％、2．筆記試験80％とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。



教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：西村 洋子（編集）『最新 介護福祉全書 3 介護の基本』メジカルフレンド社,平成25年。

他オリジナル資料配付。

科目名	基礎介護論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC226		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。

#### 授業の概要

1. 「尊厳を支える介護」、2. 「自立に向けた介護」3. 「介護を必要とする人の理解」4. 「介護従事者の倫理（職業倫理、利用者の人権と介護、プライバシーの保護）」、について学習する。

#### 学修目標

介護福祉士の基盤となる、介護の基礎知識の習得と「尊厳」・「自立」・「倫理」の捉え方について理解を深めることを学修目標とする。

内容		
1	尊厳を支える介護	内 容：QOLと介護のあり方
2	尊厳を支える介護	内 容：A. マズローの欲求階層理論と尊厳を支える介護
3	尊厳を支える介護	内 容：ノーマライゼーションと尊厳を支える介護
4	尊厳を支える介護	内 容：ノーマライゼーションからエンパワメント
5	尊厳を支える介護	内 容：憲法25条生存権と尊厳を支える介護
6	尊厳を支える介護	内 容：憲法13条幸福追求権と尊厳を支える介護
7	尊厳を支える介護	内 容：生活保護と尊厳を支える介護
8	介護を必要とする人の理解	内 容：人間の多様性・複雑性の理解～生活史、価値観～
9	介護を必要とする人の理解	内 容：人間の多様性・複雑性の理解～生活習慣、文化等～
10	介護サービスの現状	内 容：介護保険制度の概要～保険者と被保険者～
11	介護サービスの現状	内 容：介護保険制度の概要～介護保険施設の種類とサービス～
12	介護実践における連携	内 容：～他職種連携の意義と目的～
13	介護従事者の倫理	内 容：介護従事者の職業倫理
14	介護従事者の倫理	内 容：介護実践の場で求められる倫理
15	まとめ	

#### 評価

1. レポート20%、2. 筆記試験80%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：西村 洋子（編集）『最新 介護福祉全書 3 介護の基本』メジカルフレンド社,平成25年。

他オリジナル資料配付

科目名	コミュニケーション技術		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC131		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

介護福祉士に必要なコミュニケーション理論・技術についての演習を行う。

#### 授業の概要

コミュニケーション技術 では介護におけるコミュニケーションの基本について、(1)コミュニケーションとは、(2)コミュニケーションの基本、(3)コミュニケーションの理論と実際、について演習を展開する。

#### 学修目標

本科目の学修目標は、介護におけるコミュニケーションの基本、について、グループワーク演習を主体としてその理論とスキルを習得することを目標とする。

#### 内容

1	オリエンテーション ～授業の概要～
2	コミュニケーションとは(1)～日常生活におけるコミュニケーション～
3	コミュニケーションとは(2)～日常生活におけるコミュニケーション場面～
4	コミュニケーションとは(3)～日常生活におけるコミュニケーション手段～
5	コミュニケーションの基本(1)～介護福祉士に求められるコミュニケーション能力～
6	コミュニケーションの基本(2)～介護福祉士に求められるコミュニケーションスキル～
7	コミュニケーションの基本(3)～介護福祉士に求められるコミュニケーションスキル～
8	コミュニケーションの理論と実際(1)～自己紹介と他者紹介～
9	コミュニケーションの理論と実際(2)～自己紹介と他者紹介～
10	コミュニケーションの理論と実際(3)～自己開示～
11	コミュニケーションの理論と実際(4)～伝言ゲーム～
12	コミュニケーションの理論と実際(5)～価値交流～
13	コミュニケーションの理論と実際(6)～交流分析と自己覚知～
14	コミュニケーションの理論と実際(7)～リーダーシップ理論～
15	まとめ

#### 評価

課題レポート30%、定期試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：最新 介護福祉全書 4コミュニケーション技術

編集/松井 奈美 ISBN：978-4-8392-3144-6

第1版/2008年 12月

他オリジナル資料配付

科目名	生活支援技術概論		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング	KDC132		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。

##### 科目の概要

私たちは「生活とは何か」について特に意識することなく、毎日を過ごしている。生活支援を理解するにあたり、最初に生活がどのような側面から構成されているかなど、「生活とは何か」を理解する必要がある。人としての生活とは、単に生命を維持するためのものではなく、家族、地域や社会とかわりを持ちながら、人間として尊厳のある暮らしをすることである。

##### 学修目標

1. 援助を必要な人にとって人間として尊厳のある暮らしとは、どのようなものを理解する
2. 自立や自己決定に基づく生活マネジメントについて理解する
3. 基礎的な生活支援技術の理論を理解する

#### 内容

1	ガイダンス 生活の定義
2	生活支援とは何か
3	自立に向けた生活支援 自立と自律
4	高齢者の生活の理解
5	生活における環境整備
6	高齢者施設における生活
7	障害者施設における生活
8	自立に向けた移動の介護 車いす
9	自立に向けた移動の介護 体位変換
10	自立に向けた移動の介護 安楽な体位
11	自立に向けた移動の介護 歩行
12	自立に向けた移乗の介護
13	自立に向けた清潔の介護
14	入浴の介護とは
15	まとめ

#### 評価

課題レポート (30%)、ペーパーテスト (70%) とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】事前に渡された予定表で確認し、テキストを読んでおく。

【事後学修】配布されたプリントをノートにまとめ、理解を深める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング	KDC133		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。生活支援技術概論と組み合わせた授業である。

##### 科目の概要

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業は、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、安全に支援できる技術や知識を学ぶ。

##### 学修目標

1. 支援を必要とする人の状態を把握し、適切な介護技術を選択できる。
2. 基礎的な生活支援技術を科学的な理論とともに習得する。

#### 内容

1	生活とは何か 生活支援における技術
2	生活支援技術とは何か
3	援助者の健康管理
4	高齢者疑似体験
5	ベッドメイキングの技術
6	施設における生活支援技術
7	観察とアセスメント
8	車いすの介護技術
9	体位変換の介護技術
10	安楽な体位の保持
11	歩行の介護技術
12	移乗の介護技術
13	清潔の介護技術
14	入浴の介護技術
15	まとめ

#### 評価

課題レポート(20%)、実技試験(60%)、授業への取り組み(20%)とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】初回に配布された予定表にもとづき、テキストをよく読んでおく。演習内容により服装・持ち物が異なるので



、事前に確認、準備をする。

【事後学修】授業で学んだ介護技術を自分のものにし、実習で実践できるように練習する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術 』 中央法規出版

【参考図書】介護技術全書編集委員会 『わかりやすい介護技術演習』 ミネルヴァ書房

壬生尚美 佐分行子 『事例で学ぶ生活支援技術習得 新カリ対応』 日総研

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング	KDC233		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

介護福祉士養成課程カリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の一つである。

#### 科目の概要

日常生活支援技術とは、介護を必要とする人に対して、自立に向けて様々な視点から生活を支援していくための技術である。日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、適切な介護技術を用いて、安全で安楽に支援できるように、知識や技能を習得する。科学的根拠にもとづく生活支援技術を用い、尊厳やプライバシーの保持といった介護の基本を実践においもて生かす力を身につけるための学びである。

#### 学修目標 (= 到達目標)

介護を必要とする人の自立 ( 自律 ) に向けた介護について理解できる。

科学的根拠に基づいた生活支援技術について理解できる。

生活支援技術における多職種連携について理解できる。

内容	
1	生活環境の理解 福祉機器展
2	生活環境の理解 福祉機器展の振り返り
3	自立に向けた身じたくの介護 整容
4	自立に向けた身じたくの介護 衣服の着脱
5	自立に向けた食事の介護 普通食
6	自立に向けた食事の介護 嚥下食
7	屋外における車椅子介助
8	様々な福祉用具について
9	他職種との連携
10	在宅サービス事業所における介護
11	自立に向けた排泄の介護
12	自立に向けた排泄の介護
13	自立に向けた排泄の介護
14	睡眠の介護
15	まとめ

#### 評価

課題レポート (30%)、ペーパーテスト (70%) とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合

は、再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前準備】初回に配布擦る予定表により確認し、テキストを熟読する。

【事後学修】授業で学んだ箇所を読み返す。配布した資料を熟読する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集『生活支援技術』中央法規出版

【推薦書】授業の中で紹介する

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	野島 靖子、山口 由美		
ナンバリング	KDC333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。日常生活支援技術 と組み合わせた授業である。

#### 科目の概要

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業は、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、安全に支援できる技術や知識を学ぶ。

#### 学修目標

1. 介護を必要とする人の状態を把握し、適切な介護技術を選択できる。
2. 介護を必要とする人の状態変化に応じ、プライバシーを保持し、安全・安楽に対応できる技術を習得する。
3. 必要な福祉用具の機能を理解し、適切な用具を選択できる。

#### 内容

1	高齢者・障害者における生活環境整備	福祉機器展
2	高齢者・障害者における生活環境整備	福祉機器展振り返り
3	整容の介護技術	
4	衣服の着脱の介護技術	
5	食事の介護技術	普通食
6	食事の介護技術	嚥下食
7	屋外におけるの車いす介助の技術	
8	福祉用具を活用した介護技術	
9	様々な介護における多職種との連携	
10	実習 - における介護技術	
11	トイレ介助の技術	
12	おむつ交換の介助技術	
13	その他の排せつ介助方法	
14	睡眠の介護(技術演習)	
15	まとめ	

#### 評価

課題レポート(20%)、実技試験(60%)、授業への取り組み(20%)とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】初回に配布する予定表により確認し、テキストをよく読んでおく。演習内容により服装・持ち物が異なるので、事前に確認、準備をする。

【事後学修】授業で学んだ介護技術を自分のものにし、実習で実践できるように練習する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

【参考図書】介護技術全書編集委員会 『わかりやすい介護技術演習』 ミネルヴァ書房

壬生尚美 佐分行子 『事例で学ぶ生活支援技術習得 新カリ対応』 日総研

科目名	介護過程基礎		
担当教員名	柘崎 京子		
ナンバリング	KDC139		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本科目は介護過程の導入科目と位置づけ、次の3つをねらいとする。

1. 介護過程を学ぶ前提として、人とのかかわりや、人の生活についての理解を深めることができる。
2. 介護過程を学ぶ前提として、「課題解決思考」について理解できる。
3. 「情報」の内容や意味を理解し、「情報」に基づき「利用者の願いや思い」を理解できる

#### 科目の概要

[授業の目的・ねらい]を達成するために、テーマに添った演習を行う。

#### 学修目標（=到達目標）

1. 介護過程の展開に必要な視点、「課題解決思考」及び「情報」について理解できる。（知識・理解）
2. 自己学習及びグループ学習を通し、提示したワークを達成できる。（思考・技能・実践）
3. 授業内容に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。（態度・志向性）
4. 他者と意見交換し、相互に学びあう姿勢を持つ。（態度・志向性）
5. 提示したワークに対し、提出物は締め切を厳守して提出できる。（態度・志向性）

内容	
1	「かかわり」ってなんだろう <共通項をみつけ、ポスターをつくろう>
2	「かかわり」ってなんだろう 振り返りと共有
3	「かかわり」ってなんだろう <相手の立場になって考える
4	「くらし」ってなんだろう <私の過ごし方>
5	「くらし」ってなんだろう <高齢者が生きてきた時代>
6	「くらし」ってなんだろう <高齢者が生きてきた時代>
7	高齢者から学ぶ
8	課題解決思考 <課題解決思考を体験する>
9	課題解決思考 <課題解決思考を体験する>
10	課題解決思考 <課題解決思考を体験する>
11	情報の理解と情報収集 <観察し、情報を記録する>
12	情報の理解と情報収集 <項目に沿って情報収集する>
13	情報の分析・解釈・判断 <情報の分析・解釈・判断について理解する>
14	情報の分析・解釈・判断 <情報の分析・解釈・判断について理解する>
15	情報の分析・解釈・判断 <情報の分析・解釈・判断について理解する>

評価

1.授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：10%

2.演習課題の提出（内容評価含む）：70%

3.レポート：20%

総合評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、演習課題及びレポートの再提出により評価する。

#### 授業外学習

【事前準備】 次回の授業予定，宿題を提示するので，必ず取り組むこと。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返るとともに，専門用語や疑問点について調べる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】 『楽しく学ぶ介護過程』（改訂第2版）。久美出版，2012年。

【参考図書】

科目名	発達と老化		
担当教員名	市川 和男		
ナンバリング	KDC142		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

<科目の性格・科目の概要>

発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の特徴に関する基礎的知識を習得する。

<学修目標（=到達目標）>

人間の成長・発達から老化をとらえ、身体面での健康課題を理解できる。

内容	
1	人間の成長と発達の基礎的理解
2	人間の成長と発達 発達の定義・発達段階・発達課題・その他
3	老年期の発達と成熟 老年期の定義（WHO）
4	老人福祉法、老人保健法の老人医療制度）
5	ライフサイクルのなかの老年期
6	老年期の発達課題 人格と尊厳、老いの価値、喪失体験、セクシュアリティ、他
7	老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
8	高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点
9	高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点
10	高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点
11	高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点
12	高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点
13	高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点
14	保健医療職との連携
15	まとめ

評価

試験50点 小テスト・レポート30点 平常点20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次の授業の内容についてテキストを熟読しておくこと。

【事後学修】小テストを実施した際は復習を行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

新介護福祉士全書9 こころとからだのしくみ/発達と老化の理解/第2版/メジカルフレンド社



科目名	発達と老化		
担当教員名	蝦名 直美		
ナンバリング	KDC242		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：人間発達について学び、対人援助の際の手掛かりを得る。

科目の概要：心理学の観点から、人間の発達過程を理解する

学修目標：各発達段階でどのような変化が起きるのか、発達を支援するためにはどのようなことが必要か理解する。

#### 内容

1	ガイダンス・発達とは何か
2	発達における遺伝と環境
3	発達段階と発達課題
4	子どもの身体の成長
5	子どもの発達と養育者との関係
6	子どもの認知機能の発達
7	子どものコミュニケーション能力の発達・社会性の発達
8	青年期の特徴
9	青年期に起こりやすい心理的問題
10	成人期の特徴
11	中年期の特徴
12	老年期の認知機能の変化
13	老年期の人間関係
14	老年期のQOLと死
15	まとめ

#### 評価

平常点を15点、小テストを35点、期末試験を50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に資料を配布するので、授業開始までに読んでおくこと。

【事後学修】授業内に学習ポイントとなるキーワードを指示するので、次回の授業までに、キーワードの意味内容について論述できるようにすること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。

資料・参考図書は授業中に紹介します。

科目名	保育原理		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd147		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 人間福祉学科 ( KD )		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は「保育士資格」取得のための必修科目である。

##### 科目の概要

乳幼児期の保育に関する制度や歴史、保育の本質とその意義について学んでいく。保育士業務に関する基礎的かつ重要な内容であることから、適宜試験やレポート作成などを行い、知識の定着を図っていく。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

保育所等における保育について、その背景にある諸制度、思想、歴史を理解すること、これらを踏まえた保育者の役割や職業倫理について理解することを目標とする。

#### 内容

1	ガイダンス
2	保育所等の諸制度 ( 1 ) 保育所等の機能と役割
3	保育所等の諸制度 ( 2 ) 保育所等の制度的枠組み
4	保育所等の諸制度 ( 3 ) 保育職の資格・免許
5	諸制度のまとめ
6	保育の思想と歴史 ( 1 ) 諸外国
7	保育の思想と歴史 ( 2 ) 日本
8	保育の本質とその意義 ( 1 ) 乳幼児の発達
9	保育の本質とその意義 ( 2 ) 保育の目標と方法
10	保育の本質とその意義 ( 3 ) 環境を通じた総合的な指導
11	保育の本質とその意義 ( 4 ) 保育の環境
12	保育の実際 ( 1 )
13	保育の実際 ( 2 )
14	保育の本質とその意義のまとめ
15	全体のまとめ

#### 評価

評価は 授業への取り組み10%、 提出物 ( レポート、コメントシート、ワークシート等 ) 40%、 試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】授業内で事前配布する予習プリントに、予め内容を記入し持参すること。

【事後学修】各回の授業内容を各自でまとめておくこと。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

厚生労働省（2008）『保育所保育指針解説書』フレーベル館

文部科学省（2008）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

子どもと保育総合研究所監修『最新保育資料集2015』ミネルヴァ書房

（生協で各自購入すること）

##### 【参考図書】

森上史朗・柏女霊峰編『保育用語事典第7版』ミネルヴァ書房

科目名	乳幼児期の心理学		
担当教員名	亀田 秀子		
ナンバリング	KDd151		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

生涯発達の観点から、子どもの発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し、発達援助のあり方を理解することを目指す。

#### 科目の概要

乳幼児期の発達と保育者の役割について理解する。また、子どもの情緒の発達、ことばの発達、記憶の発達等を理解し、人とのかかわりを通して成長することの理解を深める。

さらに、生涯発達の観点で子どもの発達をとらえ、子どもの発達を援助する方法と評価について理解する。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。

子どもの心身の発達にかかわる心理学の基礎の理解を深める。

子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

生涯発達の観点から、発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し、保育との関連を考察する。

各回の講義後に出される課題に取り組み、講義内容について自ら問題意識を持って理解を深める。

#### 内容

1	保育と心理学 子どもの発達を学ぶのはなぜか、子どもの見方・とらえ方
2	子どもの発達と環境 子どもの発達と環境
3	子どもの発達と環境 からだの発達と運動機能
4	子どもの発達と環境 見ること・考えることの発達
5	子どもの発達と環境 情緒の発達と自己の形成
6	子どもの発達と環境 ことばの発達
7	人との相互的にかかわりと子どもの発達 基本的信頼感の獲得
8	人との相互的にかかわりと子どもの発達 人とのかかわり
9	人との相互的にかかわりと子どもの発達 友達関係と遊びの発達
10	学びと発達 記憶の発達、学びのしくみ
11	学びと発達 やる気と環境
12	生涯発達と発達援助 発達段階と発達課題、胎児期および新生児期、乳幼児期
13	生涯発達と発達援助 児童期、青年期、成人期以降の課題
14	発達援助と評価 発達援助の意義、保育実践の評価と心理学
15	まとめ

#### 評価

提出課題等、40点、期末テスト60点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前準備】毎回の講義までに、テキストの指定箇所を読み、分からない点、疑問点について各自、調べて持参すること。

【事後学修】講義内容をよく復習し、理解しておくこと。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子著『保育の心理学』第2版 ナカニシヤ出版

【推薦書】内田伸子編『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

【参考図書】講義の中で随時、紹介する。

科目名	保育の心理学		
担当教員名	亀田 秀子		
ナンバリング	KDd251		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

保育における子どもの発達援助について、事例を通して理解する。

「保育の心理学」は、「乳幼児期の心理学」で学んだことを演習科目としてさらに深めていく。

#### 科目の概要

「乳幼児期の心理学」の内容を踏まえて、より実践的に子どもの発達と保育者の役割について理解を深める。子ども同士の関わりの広がりや学びの過程で遊びが果たす役割、保育者の援助のポイントについて理解を深めると共に、発達援助についての事例検討も含めた実践的な課題を通して理解を深める。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。

生活と遊びを通してのこどもの経験や学習の過程を理解する。

保育における発達援助について学ぶ。

演習科目という特質を踏まえて、実践的なワークを通して理解を深める。

各回の講義後に出される課題に取り組み、講義内容について自ら問題意識を持って理解を深める。

内容	
1	子どもの発達と保育実践 子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践 個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践 身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
4	子どもの発達と保育実践 環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践 子ども相互のかかわりと関係づくり
6	子どもの発達と保育実践 自己主張と自己抑制
7	子どもの発達と保育実践 子ども集団と保育の環境
8	生活や遊びを通じた学びの過程 子どもの生活と遊び
9	生活や遊びを通じた学びの過程 子どもの遊びと学び
10	生活や遊びを通じた学びの過程 生涯にわたる生きる力の基礎を培う
11	保育における発達援助 基本的な生活習慣の獲得・自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助 発達の課題に応じた援助やかかわり、発達の連続性と就学への支援
13	保育における発達援助 発達援助における協働、現代社会における子どもの発達と保育の課題
14	保護者への支援 様々な保護者の存在と支援の目的とその理解、配慮を要する保護者
15	まとめ

## 評価

提出課題等40点、期末テスト60点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

## 授業外学習

【事前準備】毎回の講義までに、テキストの指定箇所を読み、分からない点、疑問点について各自、調べて持参すること。

【事後学修】講義内容をよく復習し、理解しておくこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】井戸ゆかり編著、園田巖・紺野道子『保育の心理学』 萌文書林

【推薦書】青木紀久代編『実践・発達心理学』 株式会社みらい

【参考図書】相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子著『保育の心理学』第2版 ナカニシヤ出版

科目名	保育内容総論		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd158		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、保育所における保育内容を総合的に理解するための科目である。

##### 科目の概要

本科目では、乳幼児にふさわしい生活を展開するために必要な知識を身に付ける。具体的には、保育の構造を踏まえた子ども理解と記録の方法などについて学ぶ。あわせて、遊びや教材に関する研究を行っていく。

##### 学修目標 (= 到達目標)

本科目においては 保育の構造について理解すること、 子ども理解と記録の方法を理解すること、 子どもの発達を踏まえた遊びや教材に関する知識を身に付け、計画の立案ができるようになること、を目標とする。

#### 内容

1	ガイダンス
2	保育における「領域」と「ねらい・内容」
3	保育内容と子ども理解
4	保育内容と子ども理解
5	保育内容と保育記録
6	保育内容と保育記録
7	保育内容と遊びの意義
8	保育内容と遊びの意義
9	保育内容と遊びの意義
10	中間まとめ
11	保育における教材
12	保育における教材
13	保育の計画と実践
14	保育の計画と実践
15	まとめ

#### 評価

授業への取り組み10%、 提出物40%、 試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】各回で指定された事前調査の課題に取り組むこと。

【事後学修】授業内容のまとめ、グループ内での話し合いの内容のまとめを行うこと。



教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館（その他、適宜プリントを配布）

【推薦書】

吉村真理子『保育者の「出番」を考える-今、求められる保育者の役割-』フレーベル館

【参考図書】

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育内容演習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KDd159		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士免許取得のための必修科目である。

科目の概要

乳幼児期の子どもを中心に、子どもが健全に成長発達を遂げられるように、心身の健康面に視点を置き、子どもの保育を考えていく。

学修目標（＝到達目標）

- 1.乳幼児の子どもの心身の成長発達が理解できる。
- 2.子どもの健康保持のための支援について説明できる。

内容

1	ライフサイクルにおける乳幼児期とは
2	子どもの身体に関する発達
3	子どもの精神に関する発達
4	子どもと遊び
5	子どもの発達と基本的生活習慣（食事・排泄）
6	子どもの発達と基本的生活習慣（睡眠・清潔）
7	子どもの疾病と健康
8	子どもの養育者の思い
9	子どもの健康支援の意義
10	子どもの健康支援（学生プレゼンテーション）
11	子どもの健康支援（学生プレゼンテーション）
12	子どもの健康支援（学生プレゼンテーション）
13	乳幼児の安全管理
14	乳幼児の応急手当
15	まとめ

評価

授業への参加状況（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】TVの育児支援番組（NHKなど）を見ておきましょう。

【事後学修】学びを基に、乳幼児を観察して見ましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示をする。

【推薦書】

【参考図書】大西文子編著『子どもの保健演習』中山書店

科目名	保育の表現技術（音楽表現）		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KDd168		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

保育専門科目の一つであり、1年生が選択できます。声・身体・楽器を使って子どもの運動能力や感性を磨く活動ができるよう、音楽表現の基礎的な技能を学びます。

#### 科目の概要

季節感のある歌、行事の歌などのレパートリーを増やし、子どもに音楽の楽しさを伝えられる大人になることを目指します。

また、音楽に合わせて身体を動かすリズム運動・リズム遊びを体験し、歌や楽器演奏、子どもへの声かけに必要な技術を学びます。

後半では総合表現の作品「子どもの四季」に挑戦し、一人ひとりが自主的に考え、表現します。

#### 学修目標（=到達目標）

- ・心と耳を開いて、音楽と周りの人に接すること（聴くことは福祉でも大切です。）
  - ・音に対する興味・探究心を持ち、生き生きとした保育者になるイメージをつかむこと
  - ・リズム感を磨き、身体コントロールを意識的に行い、表現する勇気と喜びを持てるようにすること
- これがこの講座の目標です。

内容	
1	保育における歌とリズム
2	【歌】レパートリー拡大 / 【リズム】動きと静止
3	【歌】レパートリー拡大 / 【リズム】ステップ（ワルツ、スキップ、ギャロップ）
4	【歌】レパートリー拡大 / 【リズム】ステップ（ツーステップ他）
5	【歌】レパートリー拡大 / 【リズム】乳児のリズム
6	【歌】レパートリー拡大 / 【リズム】3～4歳児のリズム
7	【歌】レパートリー拡大 / 【リズム】5歳児のリズム
8	「子どもの四季」 作品と出会う
9	「子どもの四季」 呼吸法と指揮
10	「子どもの四季」 互いに聴くこと
11	「子どもの四季」 朗読の練習
12	「子どもの四季」 身体表現を考える
13	「子どもの四季」 保育者の表現力
14	「子どもの四季」 共に学ぶ
15	まとめ

## 評価

授業への取り組み60% / 試験（レポート）40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

## 授業外学習

【事前準備】子どもの歌や、文化に触れる機会をできるだけ多く持つこと。

【事後学修】復習し、次の課題を見つけること。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】尾林裕美子他共著『保育のための歌と遊び こどもの世界』（ドレミ楽譜出版社）

\*最初の授業までに楽譜を購入し、歌ったり弾いたりしてできるだけ予習をして下さい。

「子どもの四季」、リズムの楽譜は教室で配布します。

【推薦書】斎藤公子『さくら・さくらんぼのリズムと歌 ヒトの子を人間に育てる保育の実践』（群羊社）、子安美知子『ミュンヘンの小学生 娘が学んだシュタイナー学校』（中公新書）

【参考図書】斎藤公子記念館監修『DVDブック 映像で見る子どもたちは未来・第 期 ブック「斎藤公子のリズムと歌」+DVD「斎藤公子 最後の卒園式」』（かもがわ出版）

科目名	保育の表現技術（身体表現）		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング	KDd169		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

感じたことや考えたことを、自分なりに表現することで、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにします。特に身体表現は、言葉や音楽、自然や造形などの、さまざまな表現活動から生まれる、総合的な表現活動と言えます。特に「環境」は、最も重要なかわりを持っています。

科目の概要

保育所保育指針の示す領域「表現」の中の、身体（からだ）を使った表現力を養い、創造性を豊かにするために、保育者として必要な感性や表現能力を学びます。

学修目標（＝到達目標）

1. 一人ひとりの子どもの心に寄り添い、ごっこ遊びや表現遊びなどを通して、イメージを共有したり それぞれのイメージを生活や遊びの中で生かしていくようにする。
2. 日々の生活の中における、音や色、形などいろいろな物に対する感性が豊かになる。
3. 感じたことや考えたことが、自分なりに表現でき、それを楽しむことや、表現活動を引き出すための言葉かけを身につける。

内容

1	オリエンテーション 表現とは・・・保育所保育指針における「表現」について
2	身体を使ったリズム遊びの体験 音の楽しさに触れる からだを動かす
3	手遊びうたの体験 演習
4	手遊びうたの体験 演習
5	声による表現法について 擬音語 擬態語 擬声語（オノマトペ）体験
6	声による表現法について 動きとイメージを結びつける言葉かけ 演習
7	音と動きのコラボレーション 感じたことをからだで表現する 演習
8	音と動きのコラボレーション 感じたことをからだで表現する 演習
9	曲と動きのコラボレーション ピアノや音源を利用し、からだで表現する
10	曲と動きのコラボレーション ピアノや音源を利用し、表現する ダンスへ発展
11	テーマを決めて創作 劇遊び ミュージカルなど
12	テーマを決めて創作 劇遊び ミュージカルなど
13	総合的身体表現 創作発表
14	総合的身体表現 創作発表
15	まとめ

評価

授業への意欲20% 毎回のレポート20% 表現力60% とし、総合評価60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前準備】日常生活における、身近な音、色、形など、常に興味を持ち、ノートに書き留めておく

【事後学修】演習で実践したものは、今後の資料になるよう、毎回ノートにまとめておく

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない 毎回プリント配布

【推薦書】必要に応じ、随時授業で紹介する

【参考図書】必要に応じ、随時授業で紹介する

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができます。楽譜を読む力をつけ、ピアノの基礎的な技能を身につける授業です。

#### 科目の概要

ピアノを使って子どもの歌を伴奏する方法、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の表現の技術を学びます。学生一人ひとりの音楽経験や個性に合ったアドバイスができるように、基本的に個人レッスンの形態で授業を行います。

#### 学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々なレパートリーを知ること
  - ・学生の皆さんが歌の伴奏やリズム運動のピアノを弾きたくるように、そして、子どもが歌いたくなるような指導ができるようになること
  - ・身体の中のリズム感を磨き、表現する勇気と喜びが持てるようにすること
- これがこの講座の目標です。

#### 内容

・歌や音楽表現があると、保育が豊かになります。ピアノ、アコーディオン、ギターなどの楽器を使って、子どもの歌やリズム遊びを支援できたら、保育の可能性も広がることと思います。

この授業では、広い空間でも音がよく響き、音色の変化に富んでいる「ピアノ」の基本的な技能を学び、楽しく楽器を弾けることや、弾き歌いができるようになることを目指します。

授業以外の日にも、質の良い予習・復習が求められます。

- ・卒業後にも新しい曲に出会うためには、楽譜を自分の力で読めるようになることが必要ですが、一つの曲でも簡易伴奏のもの、コードネーム付きのものなど色々な楽譜がありますので、それらの特徴と読み方、それぞれの良さを解説します。
- ・歌の伴奏では、子どもの表情を見ながら演奏し、必要な合図ができるように、歌いだしの呼吸の示し方なども練習します。必要に応じて移調にも触れます。
- ・楽器を弾くと同時に、聴く力を育てます。
- ・身体の中に、リズムの躍動感と、音に対する繊細な感覚を持てるようにします。

#### 評価

実技試験70% / 通常の取り組み30%とし、総合評価60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。

【事後学修】授業内で変えたこと、変わったことを復習し、次のステップへ進めていくこと。



教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社）

\*最初の授業までに各自、楽譜を購入し、解説を読みながらできる限り予習してください。

教材はその他にも適宜紹介します。

【参考図書】尾林裕美子他共著『保育のための歌と遊び こどもの世界』（ドレミ楽譜出版社）

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができます。楽譜を読む力をつけ、ピアノの基礎的な技能を身につける授業です。

### 科目の概要

ピアノを使って子どもの歌を伴奏する方法、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の表現の技術を学びます。学生一人ひとりの音楽経験や個性に合ったアドバイスができるように、基本的に個人レッスンの形態で授業を行います。

### 学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々なレパートリーを知ること
  - ・学生の皆さんが歌の伴奏やリズム運動のピアノを弾きたくなるように、そして、子どもが歌いたくなるような指導ができるようになること
  - ・身体の中のリズム感を磨き、表現する勇気と喜びが持てるようにすること
- これがこの講座の目標です。

## 内容

・歌や音楽表現があると、保育が豊かになります。ピアノ、アコーディオン、ギターなどの楽器を使って、子どもの歌やリズム遊びを支援できたら、保育の可能性も広がることと思います。

この授業では、広い空間でも音がよく響き、音色の変化に富んでいる「ピアノ」の基本的な技能を学び、楽しく楽器を弾けることや、弾き歌いができるようになることを目指します。

授業以外の日にも、質の良い予習・復習が求められます。

- ・卒業後にも新しい曲に出会うためには、楽譜を自分の力で読めるようになることが必要ですが、一つの曲でも簡易伴奏のもの、コードネーム付きのものなど色々な楽譜がありますので、それらの特徴と読み方、それぞれの良さを解説します。
- ・歌の伴奏では、子どもの表情を見ながら演奏し、必要な合図ができるように、歌いだしの呼吸の示し方なども練習します。必要に応じて移調にも触れます。
- ・楽器を弾くと同時に、聴く力を育てます。
- ・身体の中に、リズムの躍動感と、音に対する繊細な感覚を持てるようにします。

## 評価

実技試験70% / 通常の取り組み30%とし、総合評価60点以上を合格とします。

## 授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。

【事後学修】授業内で変えたこと、変わったことを復習し、次のステップへ進めていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社）

\*最初の授業までに各自、楽譜を購入し、解説を読みながらできる限り予習してください。

教材はその他にも適宜紹介します。

【参考図書】尾林裕美子他共著『保育のための歌と遊び こどもの世界』（ドレミ楽譜出版社）

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができます。楽譜を読む力をつけ、ピアノの基礎的な技能を身につける授業です。

#### 科目の概要

ピアノを使って子どもの歌を伴奏する方法、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の表現の技術を学びます。学生一人ひとりの音楽経験や個性に合ったアドバイスができるように、基本的に個人レッスンの形態で授業を行います。

#### 学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々なレパートリーを知ること
  - ・学生の皆さんが歌の伴奏やリズム運動のピアノを弾きたくなるように、そして、子どもが歌いたくなるような指導ができるようになること
  - ・身体の中のリズム感を磨き、表現する勇気と喜びが持てるようにすること
- これがこの講座の目標です。

#### 内容

・歌や音楽表現があると、保育が豊かになります。ピアノ、アコーディオン、ギターなどの楽器を使って、子どもの歌やリズム遊びを支援できたら、保育の可能性も広がることと思います。

この授業では、広い空間でも音がよく響き、音色の変化に富んでいる「ピアノ」の基本的な技能を学び、楽しく楽器を弾けることや、弾き歌いができるようになることを目指します。

授業以外の日にも、質の良い予習・復習が求められます。

- ・卒業後にも新しい曲に出会うためには、楽譜を自分の力で読めるようになることが必要ですが、一つの曲でも簡易伴奏のもの、コードネーム付きのものなど色々な楽譜がありますので、それらの特徴と読み方、それぞれの良さを解説します。
- ・歌の伴奏では、子どもの表情を見ながら演奏し、必要な合図ができるように、歌いだしの呼吸の示し方なども練習します。必要に応じて移調にも触れます。
- ・楽器を弾くと同時に、聴く力を育てます。
- ・身体の中に、リズムの躍動感と、音に対する繊細な感覚を持てるようにします。

#### 評価

実技試験70% / 通常の取り組み30%とし、総合評価60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。

【事後学修】授業内で変えたこと、変わったことを復習し、次のステップへ進めていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社）

\*最初の授業までに各自、楽譜を購入し、解説を読みながらできる限り予習してください。

教材はその他にも適宜紹介します。

【参考図書】尾林裕美子他共著『保育のための歌と遊び こどもの世界』（ドレミ楽譜出版社）

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができます。楽譜を読む力をつけ、ピアノの基礎的な技能を身につける授業です。

#### 科目の概要

ピアノを使って子どもの歌を伴奏する方法、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の表現の技術を学びます。学生一人ひとりの音楽経験や個性に合ったアドバイスができるように、基本的に個人レッスンの形態で授業を行います。

#### 学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々なレパートリーを知ること
  - ・学生の皆さんが歌の伴奏やリズム運動のピアノを弾きたくなるように、そして、子どもが歌いたくなるような指導ができるようになること
  - ・身体の中のリズム感を磨き、表現する勇気と喜びが持てるようにすること
- これがこの講座の目標です。

#### 内容

・歌や音楽表現があると、保育が豊かになります。ピアノ、アコーディオン、ギターなどの楽器を使って、子どもの歌やリズム遊びを支援できたら、保育の可能性も広がることと思います。

この授業では、広い空間でも音がよく響き、音色の変化に富んでいる「ピアノ」の基本的な技能を学び、楽しく楽器を弾けることや、弾き歌いができるようになることを目指します。

授業以外の日にも、質の良い予習・復習が求められます。

- ・卒業後にも新しい曲に出会うためには、楽譜を自分の力で読めるようになることが必要ですが、一つの曲でも簡易伴奏のもの、コードネーム付きのものなど色々な楽譜がありますので、それらの特徴と読み方、それぞれの良さを解説します。
- ・歌の伴奏では、子どもの表情を見ながら演奏し、必要な合図ができるように、歌いだしの呼吸の示し方なども練習します。必要に応じて移調にも触れます。
- ・楽器を弾くと同時に、聴く力を育てます。
- ・身体の中に、リズムの躍動感と、音に対する繊細な感覚を持てるようにします。

#### 評価

実技試験70% / 通常の取り組み30%とし、総合評価60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。

【事後学修】授業内で変えたこと、変わったことを復習し、次のステップへ進めていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社）

\*最初の授業までに各自、楽譜を購入し、解説を読みながらできる限り予習してください。

教材はその他にも適宜紹介します。

【参考図書】尾林裕美子他共著『保育のための歌と遊び こどもの世界』（ドレミ楽譜出版社）

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができます。楽譜を読む力をつけ、ピアノの基礎的な技能を身につける授業です。

#### 科目の概要

ピアノを使って子どもの歌を伴奏する方法、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の表現の技術を学びます。学生一人ひとりの音楽経験や個性に合ったアドバイスができるように、基本的に個人レッスンの形態で授業を行います。

#### 学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々なレパートリーを知ること
  - ・学生の皆さんが歌の伴奏やリズム運動のピアノを弾きたくなるように、そして、子どもが歌いたくなるような指導ができるようになること
  - ・身体の中のリズム感を磨き、表現する勇気と喜びが持てるようにすること
- これがこの講座の目標です。

#### 内容

・歌や音楽表現があると、保育が豊かになります。ピアノ、アコーディオン、ギターなどの楽器を使って、子どもの歌やリズム遊びを支援できたら、保育の可能性も広がることと思います。

この授業では、広い空間でも音がよく響き、音色の変化に富んでいる「ピアノ」の基本的な技能を学び、楽しく楽器を弾けることや、弾き歌いができるようになることを目指します。

授業以外の日にも、質の良い予習・復習が求められます。

- ・卒業後にも新しい曲に出会うためには、楽譜を自分の力で読めるようになることが必要ですが、一つの曲でも簡易伴奏のもの、コードネーム付きのものなど色々な楽譜がありますので、それらの特徴と読み方、それぞれの良さを解説します。
- ・歌の伴奏では、子どもの表情を見ながら演奏し、必要な合図ができるように、歌いだしの呼吸の示し方なども練習します。必要に応じて移調にも触れます。
- ・楽器を弾くと同時に、聴く力を育てます。
- ・身体の中に、リズムの躍動感と、音に対する繊細な感覚を持てるようにします。

#### 評価

実技試験70% / 通常の取り組み30%とし、総合評価60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。

【事後学修】授業内で変えたこと、変わったことを復習し、次のステップへ進めていくこと。



教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社）

\*最初の授業までに各自、楽譜を購入し、解説を読みながらできる限り予習してください。

教材はその他にも適宜紹介します。

【参考図書】尾林裕美子他共著『保育のための歌と遊び こどもの世界』（ドレミ楽譜出版社）

科目名	レクリエーション援助論		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング	KDd175		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

この科目は、人と人との出会いや人とのつながりにおいて、とても意味のある科目です。特に、社会福祉サービスにおいて、レクリエーションの果たす役割は大きく、注目されています。ここでは、必要とされるレクリエーションの意味と、人々への日常的な楽しさや心地よさを提供する援助者としての役割について学んでいきます。また、援助者が身につけるためのコミュニケーション技術としてアイスブレイキングやホスピタリティ ( 心地よさ・人間関係能力 ) を演習します。これらは、介護コースの科目であるレクリエーション活動援助法につながる、基本的な学修と言えます。また、人間発達心理学科専門科目のレクリエーション援助法と同時開講となるため、演習を取り入れながら学修していきます。

学修目標は、下記の5点です。

1. 人と人との出会いの喜びを体験し、コミュニケーションを深める。
2. レクリエーションは、健康づくりをはじめ社会福祉や教育、地域づくり、環境に至るまで幅広い領域で活用されていることを理解し、援助者としての役割を学修する。
3. ノートやファイルなどを有効に活用し、資料作成を行うと共に、毎時間ごとのふりかえりや記録をとることの重要性を理解する。
4. レクリエーションにおけるホスピタリティについて理解し、声かけや・態度・行動を身につける。
5. コミュニケーション技術に必要な素材やアクティビティを体験し、人前で提供出来るようになる。

内容

1	はじめまして 出会いの喜び アイスブレイキングの体験プログラム
2	レクリエーションの意義
3	レクリエーションと社会福祉について
4	レクリエーションの支援 利用者と援助者のあり方について
5	福祉レクリエーション援助のプロセス
6	福祉レクリエーション援助のための技術と方法 アクティビティの実際
7	援助者のためのコミュニケーション技法
8	個別レクリエーション援助の立案と方法
9	集団を介したレクリエーション援助の方法
10	レクリエーション援助におけるホスピタリティの重要性
11	地域とレクリエーションの取り組み
12	プログラム計画と展開法
13	対象に合わせたプログラム作り
14	プログラムのアレンジ法
15	まとめ

評価

課題・レポート20% 演習発表20% 筆記試験40% 授業態度20% 60点以上を合格とします。合格点に満たな

かった場合は、再試験を行います。

## 授業外学習

【事前準備】毎回、レクリエーションアクティビティの資料を配布するので、予習しておく。

【事後学修】いつでも人前で、アクティビティが提供できるよう、練習しておくよう心がける。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書]使用しない。毎回プリントを配布。

[推薦書]福祉士養成講座編集委員会編集 新版 介護福祉士養成講座 第3版 レクリエーション活動

援助法 中央法規出版 (財)日本レクリエーション協会監修 福祉レクリエーションシリ

ーズ 全3

巻 中央法規出版

ホスピタリティをみかく本 ホスピタリティトレーニング研究会 遊戯社

参考図書 レクリエーション支援の基礎 財団法人 日本レクリエーション協会

その他必要に応じて、随時教室で紹介する

科目名	介護総合演習		
担当教員名	野島 靖子、宮内 寿彦、柘崎 京子、山口 由美		
ナンバリング	KDe178		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「介護総合演習」に関する科目の1つである。主として介護実習 に対応し、実習と組み合わせた学習である。

#### 科目の概要

介護実習の教育効果を上げるため、実習記録の書き方や実習のマナー、実習計画の立案方法など、実習に必要な知識や技術について学ぶ。実習後には実習報告会を開催する。個別の学習到達状況に応じた総合的な学習である。

#### 学修目標

1. 介護実習 における実習の意義について理解できる。
2. 実習前・中・後に及ぶ介護実習のプロセスを理解できる。
3. 介護実習 - 1 から介護実習 - 2 まで介護実習全体の学びを理解できる。

#### 内容

1	介護実習とは何か
2	介護実習 - 1 の実習先の理解
3	介護実習の実習計画の立て方
4	実習計目標・実習計画立案
5	介護実習における記録の書き方
6	介護実習におけるマナー
7	実習 - 1 報告会
8	3年生実習報告会参加
9	介護実習 - 2 とは何か
10	介護実習 - 2 の実習先の理解（高齢者施設）
11	介護実習 - 2 の実習先の理解（障がい者施設）
12	介護実習 - 2 実習目標・実習計画立案
13	介護実習 - 2 に向けたグループ指導
14	介護実習 - 2 実習前報告会
15	介護実習 - 2 報告会

#### 評価

課題レポート、実習に関する記録物、教員との面接により、総合的に評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】テキスト及び実習の手引きをよく読んでおく。事前に指示された課題について準備する。

【事後学修】毎回の授業で指示する。各自の実習目標・実習計画を確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版  
学内作成「実習の手引き」及びオリジナル資料配布

科目名	介護実習		
担当教員名	野島 靖子、山口 由美、宮内 寿彦、柘崎 京子		
ナンバリング	KDe179		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

介護福祉士養成課程における、「介護実習」に関する科目の1つである。

##### 科目の概要

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する学習とする。

##### 学修目標

##### 実習 - 1

- ・高齢者介護等に関わる在宅生活支援事業の概況を理解する。
- ・利用者と積極的にコミュニケーションを図ることができる。

##### 実習 - 2

- ・特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者施設等の施設の概況と利用者の生活について理解する。
- ・入所施設における基礎的な介護技術を学ぶ。

#### 内容

実習施設・事業 に区分される事業所での学外施設実習である

実習 - 5日間（40時間） 1年生後期

認知症対応型共同生活介護 小規模多機能型居宅介護 デイサービスセンター等

実習 - 7日間（56時間） 1年生後期

特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者支援施設等の入所施設

#### 評価

実習状況、記録物、教員との面接、実習施設による評価、自己評価などにより、総合的に評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】学生各自が作成した個人目標・実習計画に沿った事前学習を行う。

【事後学修】実習反省会、実習記録等により実習全般を振り返り、実習課題を見出し、次回実習へとつなげる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版

学内作成「実習の手引き」及びオリジナル資料配布

科目名	調査と統計		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング	Kdf185		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

学科専門科目のうち選択科目。

科目の概要

現代社会において活用されている統計や調査のリテラシーを学ぶ。実際の統計データを用いた加工や分析あるいは調査の企画・実施の手続を学ぶ。「社会調査の基礎」の履修前に、本科目を履修していることが望ましい。

学修目標（＝到達目標）

- ・統計や調査の結果を読み、活用できる力を身につける
- ・仮説をたて、適切な調査実施を計画する力を身につける
- ・簡単な調査を実施し、その手続きや留意点を理解する
- ・統計や調査結果の発表や活用における倫理を理解する

内容

前半は講義中心、後半は最終課題に向けた演習の内容を盛り込む予定だが、履修人数により各週の予定を調整する場合がある。

1	現代社会における統計と調査
2	代表的な統計調査 - 国勢調査・人口動態調査
3	代表的な統計調査 - 労働力調査
4	白書における統計調査データ
5	新聞における統計調査データ
6	統計調査の歴史
7	女性情報と統計調査
8	既存データの加工・二次的利用
9	データ収集と集計の手続き 質問票の作成
10	データ収集と集計の手続き 集計・分析との基本
11	事例調査の手続き 対象と質問項目
12	事例調査の手続き 分析の基本
13	ドキュメント調査の方法
14	課題発表 - 統計調査によるデータを用いたテーマ発表
15	まとめ - 調査の倫理

評価

授業中に提出する課題（4割）、発表（1割）、最終課題（5割）とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】授業を理解するための資料やデータ収集の課題にとりくむこと。

【事後学修】授業中に紹介する文献のうち、自分の関心につながるものをよむこと。毎回の講義で理解したことを最終課題につなげるよう意識して復習すること。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書】講義中に紹介する

【参考図書】講義中に紹介する



科目名	精神保健福祉論		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング	Kdf187		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：精神保健分野での、当事者の暮らしや支援の理解に欠かせない社会福祉の学修として位置付ける。人間が社会的な存在である以上、こどもから高齢者に至るすべてのライフステージで心身の健康が損なわれる可能性がある。社会的な制度の立ち遅れや社会的偏見の歴史から、その原因を探り、支援に係る専門職の役割を学ぶ。中でも第二次世界大戦後、歴史的に形成されてきた当事者こそが「その人」の専門家であるというストレングスモデルの視点を軸に据える。

科目の概要：精神保健福祉の意義、精神障がいの基礎知識、精神保健福祉の歴史的社会的背景、精神保健福祉制度の概要について理解する。ついで、生活の場及びライフサイクルにおける精神保健福祉のストレングスモデルを活かした実践的役割や多様な支援手法を学ぶ。地域生活支援センターゲスト講師による地域での固有の実践を共有、当事者講師によるその想いや願いに傾聴する場を設ける。関心ある領域に関する最終レポートを作成・発表し全体で共有する

- 学修の目標： 1 精神保健福祉の意義・制度及び歴史的形成過程が理解できる  
 2 精神障害がい者の疾病とその回復過程が理解できる  
 3 リカバリー自身の住む自治体の精神保健福祉政策を理解・評価することができる  
 4 日本の精神保健福祉政策を理解・評価・批判することができる

内容

1	オリエンテーション 映像から考える精神障がい者の人権 ( 1 ) ホスピタリズムを考える
2	映像から考える精神障がい者の人権 ( 2 ) パターナリズムと私たち
3	映像から考える精神障がい者の人権 ( 3 ) 脱施設化と精神保健福祉の展開
4	精神疾患と精神保健福祉 ( 1 ) 統合失調症 診断と治療、回復過程
5	精神疾患と精神保健福祉 ( 2 ) 気分障害と自殺予防 地域連携
6	精神保健福祉の発達史
7	地域生活支援の実際 ( 1 ) リカバリー回復モデルと退院促進
8	中間まとめ
9	地域生活支援の実際 ( 2 ) A C T 重い障がい者を地域で支える
10	地域生活支援の実際 ( 3 ) 当事者と専門職からのメッセージ ( 新座地域生活支援センター )
11	地域生活支援の実際 ( 4 ) 当事者組織からのメッセージ ( A A 関東セントラルオフィス )
12	課題発表と提出について
13	発表 ( 1 )
14	発表 ( 2 )
15	発表 ( 3 ) 課題提出 振り返り

評価

授業参加態度 30%、中間評価 20% 最終回評価 50% 60%以上合格 合格点に満たない場合には再試験を行います

## 授業外学習

「事前予習」 当該章を読み自己課題を作成する

「事後課題」 授業を受け、振り返りシート、または設定された課題をもとにレポートを作成する

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野末浩之「こころ・からだ・暮らし」精神障害者の理解と地域支援 萌文社

【推薦書】大熊一夫「精神病院を捨てたイタリア、捨てない日本」岩波書店

藤本豊編「よくわかる精神保健福祉」ミネルバ書房

野中猛「精神障害リハビリテーション」中央法規

参考図書は随時授業で紹介します

科目名	ボランティア・コーディネーション		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	Kdf188		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

社会福祉展開科目として福祉に関する「ボランティア」を中心にボランティア・コーディネーションの基本をとらえる。

##### 科目の概要

ボランティアに関する知識と推進するための技術としてコーディネーション力を、具体的実践事例を交えながら理解することを内容とする。

##### 学修目標 (=到達目標)

1. ボランティアについて理解する。
2. ボランティアコーディネーターの基本的な姿勢を身につける。
3. ボランティアコーディネーションについて理解する。

#### 内容

1	はじめに ボランティア-自らの学びの経験をもとに-
2	豊かに生きていく上で必要なボランティア
3	ボランティアとは何か
4	ボランティアの理解1
5	ボランティア活動の実際
6	ボランティアの理解2
7	ボランティア活動の意味
8	ボランティアのとらえ方1
9	ボランティアのとらえ方2
10	ボランティア活動の課題
11	コーディネーションについて
12	ボランティアコーディネーションの理解
13	ボランティアコーディネーションとボランティアコーディネーター
14	ボランティアセンターとボランティアコーディネーター
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー20%、学修目標に関する中間レポート30%、総括レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】ボランティアについて自分の認識を整理出来るように、書籍、テレビ、新聞、雑誌、実際のボランティア活動等の中から選んで事前理解を心がける。

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、示された図書等を読み、関心を持った活動等について更に調べ、学びを発展的に深める努力を心がける。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントして授業時に持参すること。

その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦書】日本ボランティアコーディネーター協会編「市民社会の創造とボランティアコーディネーション」筒井書房、柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論」(株)みらい

科目名	介護基礎		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング	Kdf089		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

介護福祉士養成課程以外の学生が、選択科目として、介護の知識と基本的な介護技術を学ぶ科目である。介護に関心がある学生や、高齢領域や障がい領域への実習を希望している学生に履修してほしい科目である。

#### 科目の概要

高齢や障がいにより支援が必要な人が、主体的にいきいきと暮らしていくために、支援者が身に付けておくべき知識と技術を学ぶ。年齢特性や障がい特性に応じた生活支援技術を学ぶ。

#### 学修目標

1. 利用者主体の介護を理解できる。
2. 利用者の尊厳を支える生活支援プロセスを習得する。
3. 環境の整備、食の支援、身じたくの支援に関する技法を習得する。

#### 内容

1	ガイダンス 介護福祉の基礎
2	介護実習室とは
3	ベッドメイキングの実際
4	高齢者の理解
5	高齢者疑似体験
6	障がいがある人の社会参加の支援
7	車いす体験と介助方法
8	食の支援 支援が必要な人の食事とは
9	食の支援 嚥下食と食事介助の方法
10	身じたくの支援とは
11	衣服の選択と着脱の方法
12	視覚に障がいがある人への支援
13	移乗介助の理解
14	排せつ介助の理解
15	まとめ

#### 評価

授業への取り組み 20点、レポート 20点、筆記試験 60点とし、総合評価 60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】予定表に基づきテキストをよく読んでおく。演習内容により服装・持ち物が異なるので、事前に確認、準備をする。

【事後学修】配布された資料をノートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柴田範子編 介護福祉士養成テキストブック「生活支援技術」ミネルヴァ書房

【推薦書】井上千鶴子編 介護福祉士養成テキストブック「介護の基本」ミネルヴァ書房

科目名	ユニバーサルデザイン論		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	Kdf190		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 日常の道具の使いやすさを対象にする福祉機器論よりも、対象を情報機器に分野を絞った科目になる。また、心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

科目の概要 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。本科目では、特にマニュアルを取り上げ、有効なマニュアルの条件について考察したい。

学修目標 わかりやすく、読んでみたくなる、具体的なマニュアルを作成したい。実際に作成する過程で、わかりやすい表現をすることが難しいことを理解してほしい。わかりやすく、読んでみたくなる、具体的なマニュアルを作成したい。実際に作成する過程で、わかりやすい表現をすることが難しいことを理解してほしい。弱者の立場に立ってものを見る視点を養いたい。

内容	
1	オリエンテーション
2	人間の心理過程と情報機器の情報処理 ( 1 ) 情報の部分性
3	人間の心理過程と情報機器の情報処理 ( 2 ) 言語
4	人間の心理過程と情報機器の情報処理 ( 3 ) 記憶
5	人間の心理過程と情報機器の情報処理 ( 4 ) 情報検索
6	人間の心理過程と情報機器の情報処理 ( 5 ) 視覚
7	人間の心理過程と情報機器の情報処理 ( 6 ) 聴覚
8	人間の心理過程と情報機器の情報処理 ( 7 ) 触覚
9	情報機器を使うことの難しさ ( 1 ) ヒューマンエラー
10	情報機器を使うことの難しさ ( 2 ) ユーザが自分の責任にしがちである現状
11	情報機器を使うことの難しさ ( 3 ) メニュー、アイコン、専門用語
12	情報機器を使うことの難しさ ( 4 ) 学習の停滞
13	情報機器を使うことの難しさ ( 5 ) プロダクションパラドックス
14	マウスやキーボードの使い方を説明する、実際のマニュアル作成をする
15	まとめ

評価

毎回提出してもらってレポート、150点満点 ( 15回X10点満点 ) で、90点以上を合格とする。

授業外学習

事前準備 日常生活における道具の観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリントを配布する

推薦書かつ参考図書 野島久雄（訳） 誰のためのデザイン 新曜社



科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング	Kdf192		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

#### 科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指文字などの基礎を理解します。

#### 学修目標 (= 到達目標)

NP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容	
1	あいさつの表現
2	家族に関する表現
3	日時に関する表現
4	指文字 (ア～サ行)
5	名前に関する表現
6	指文字 (タ～ハ行)
7	趣味に関する表現
8	指文字 (マ～ワ行)
9	地名に関する表現
10	自己紹介
11	表現力・実技試験
12	動物に関する表現
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

#### 評価

手話による実技試験 (50%)、学修目標に基づく筆記試験 (40%)、通常の授業態度 (10%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】 予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと

【事後学修】 授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】 ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

科目名	社会福祉の歴史		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング	Kdf093		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間福祉学科専門科目であり、社会福祉基礎科目である。

1. 社会福祉をめぐる日本及び欧米の歴史について学び、さらに社会福祉の理念と意義について理解する。
2. 社会福祉に影響を及ぼした人物・思想・実践を紹介し、現在に継承されている思想・実践について学ぶ。
3. 適宜、タイムリーな話題、事例を引用して身近な内容とする。

1. 社会福祉をめぐる動向について理解し、歴史上重要な事項の概略を述べることができる。
2. 社会福祉に影響を及ぼした人物の内、興味ある人物について説明することができる。

内容		
1	オリエンテーション	社会福祉の歴史を学ぶ意義について
2	現代社会と社会福祉	社会福祉の概念、範囲について
3	社会福祉の歴史：日本 1	日本における前近代の状況について
4	社会福祉の歴史：日本 2	日本における近代の状況について
5	社会福祉の歴史：日本 3	人物・思想・実践（前近代・近代）
6	社会福祉の歴史：日本 4	日本における近代から戦後にかけての状況について
7	社会福祉の歴史：日本 5	日本における戦後から現在に至る状況について
8	社会福祉の歴史：日本 6	人物・思想・実践（近代から戦後）
9	社会福祉の歴史：西洋 1	西洋における前近代から近代の状況について
10	社会福祉の歴史：西洋 2	人物・思想・実践（前近代・近代）
11	社会福祉の歴史：西洋 3	西洋における前近代から近代の状況について
12	社会福祉の歴史：日本と西洋	人物・思想・実践のまとめ グループ討議
13	興味ある歴史上の人物の紹介・グループ発表	
14	授業全体の振り返り	
15	まとめ	

## 評価

筆記試験（60点）レポート（20点）発表（10点）授業態度（10点）とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合にはレポート提出を行う。

## 授業外学習

【事前予習】事前にテキストに目を通しておくこと

【事後学修】ノートを整理し授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 よくわかる社会福祉の歴史 ミネルヴァ書房

【推薦書】 【参考図書】 随時紹介する

科目名	ケア論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	Kdf195		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

ケアリングの理論とそれに関連する思想の理解を深める。対人援助職の基本姿勢、態度の形成を目的とする意味では本授業は社会福祉基礎科目として位置づけられる、本科目は社会福祉の ケア及びケアリングの概念について理解を進め、対人援助職におけるケア及びケアリングの思想の意義を探究していくことをねらいとする。またケアリングと癒し (ヒーリング) の関連についても考察する。 ケアリング概念について説明記述でき、ケアリングそれに関連するテーマや思想的背景について独自の意見を述べるができる。

#### 内容

1	オリエンテーション
2	各定義・概念の整理：ケアの語源、関連する概念
3	根源的なケア経験、ケアの動機 (ロロ・メイ、鷺田を例として)
4	メイヤロフのケアリング論 (概要)
5	メイヤロフのケアリング論 (展開1)
6	メイヤロフのケアリング論 (展開2)
7	ロジャーズのカウンセリング論との関連
8	事例から学ぶケア1：介護
9	事例から学ぶケア2：ターミナルケア (キューブラロス、ミンデル)
10	生活の中の身近なケアリング
11	ケアと死：広井のターミナルケア論から
12	ケアリングとヒーリング：映画『千と千尋の神隠し』から
13	ケアリングとヒーリング：ケイローンの神話から
14	ケアする人の成長
15	まとめ

#### 評価

授業中のミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】広辞苑や英和辞典でケア (care) の辞書的意味やその語源を調べておく。

【事後学修】メイヤロフのケアの定義について確認し、授業で関心を持ったケアに関連する概念について調べまとめること。

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】は使用しない。資料は授業中に配布

【推薦書】

ロロ・メイ 『愛と意志』 誠信書房

メイヤロフ 『ケアの本質』 ゆみる出版

鷺田清一 『聴くことのか』 阪急コミュニケーションズ

広井良典 『ケア学』 医学書院